

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成29年11月15日
No. 115

先日、大リーグの日本選手に対して民族差別行為があったことを知っていますか。今回のハートフルデーは、民族差別の一つであるアイヌの人たちに対する民族差別について考えてみましょう。

○アイヌとは（一部人間の輪より抜粋）

アイヌ民族は、おおよそ17世紀から19世紀において東北地方北部から北海道（蝦夷ヶ島）、サハリン（樺太）、千島列島に及ぶ広い範囲をアイヌモシリ（人間の住む大地）として先住していました。

アイヌの人々は北海道や樺太島などで狩猟や漁労を中心とする暮らしを営む中で、固有の言語であるアイヌ語や、自然との共有を基本とした信仰や民族習慣などの固有の文化を持っていました。

アイヌ民族は、自然のさまざまな現象にそれぞれの神があり、動物にも神があり、植物にも道具にも、そして家や山、湖にも神があるとみなしていました。アイヌとは、そうした神々（カムイ）に対して人間のことをそう呼びました。そして、大自然と共生し、神に祈り、感謝して生活していました。

○地名とアイヌ語（人間の輪より）

東北や北海道の地名には、「別」とか「内」という字が終わりにつくところがありますが、「内」は「沢」を表す「ナイ」に漢字をあてたものです。「ワッカ」は「水」の意味を持ち、知床にある「カムイワッカ」は、「神の水」となります。

アイヌ民族衣装

■アイヌ語の例

ありがとう	イヤイライケレ
こんにちは	イランカラプテ
山	ヌプリ
クマ	キムンカムイ

○アイヌ民族の同化と差別

明治時代になって、おおぜいの和人（日本民族）が蝦夷地に入植（植民地に入って生活をはじめること）し、隣り合ってくるようになりました。日本政府はそれまで蝦夷地と呼んでいた場所を、新たに「北海道」という名前にして、植民政策（自民族の領地として人を送り込むこと）を始めました。アイヌは日本国民とされましたが、制度の上でも今日まで続くいろいろな不平等がありました。

新政府により、さまざまな法律・規則がしかれました。1899（明治 32）年「北海道旧土人保護法」が制定され、アイヌに一定の農地を下付することなどを決めました。しかし、多くの場合、その面積は和人の農民に比べて狭く、農耕に適さない土だったり、もともと暮らしていたアイヌの人々のための土地よりも鉄道などの開発計画が優先されたり、アイヌの人々の生活基盤の浸食は進み続けました。狩猟や漁業活動についても制限が加えられ、この時代以降、独自の文化の伝承も大きな制限を受けていきます。明治政府の一方的な同化政策によって、アイヌ民族は「旧土人」として位置づけられ、民族としてのこれまでの生活様式などが全て廃止され、生活に関わることが奪われていきます。明治後半になると、本州からの移住者が増え、これまでのアイヌ民族に対する抑圧・搾取に代わって「差別」が生じ大きな社会問題となっています。

現在、アイヌ民族は、生活・労働において全般的に非常に厳しい実態にあります。そして、結婚・恋愛や就職、学校での被差別体験を訴えています。

北海道が2013年に実施した「アイヌ生活実態調査」によれば、物心がついてから今までに、何らかの差別を受けたことがあると答えた人が23.4%、自分に対してはないが、他の人が受けたのを知っていると答えた人が9.6%います。高校進学率は全体の98.6%に対して92.6%、大学進学率も43.0%に対して25.8%と低く、社会的地位を向上する上で大切な、教育面の格差解消が急がれる状況です。

○差別を乗り越えるために

私たちは、アイヌの人々のことについて、今まであまり知りませんでした。今回アイヌについて調べてみると、アイヌの伝統や文化についていろいろと知ることが出来ました。アイヌに対する差別や偏見があるのは、アイヌ民族に関することについて十分理解していないことが原因でした。このような差別が生まれないようにするために私たちは、学習して、正しい知識を身につけることが大切と感じました。

次回の放送は12月13日(水)です。 お楽しみに、、、

担当 2・3年人権委員 広報委員